



Let's Learn English from American Literature

アメリカ文学から英語を学ぼう

O'Henry
Ralf Waldo Emerson
Mark Twain
Edgar Allan Poe
Louisa May Alcott
Henry James
Charlotte Gilman
Kate Shopin
Sherwood Anderson
F.Scot Fitzgerald
Nathaniel Hawthorne

Edited by
HIRONORI HAYASE
RIE EGASHIRA

EIHO SHA

Let's Learn English from American Literature

[アメリカ文学から英語を学ぼう]

O'Henry
Ralph Waldo Emerson
Mark Twain
Edgar Allan Poe
Louisa May Alcott
Henry James
Charlotte Gilman
Kate Chopin
Sherwood Anderson
F. Scot Fitzgerald
Nathaniel Hawthorne

Edited by
NIRONORI HAYASE
RIE EGASHIRA

まえがき

「あなたはなぜ英語を学びますか？」この問いかけに対して、「英語でいろいろな国の人と話がしたいから」とか「試験で良い点を取り、留学や就職に使いたいから」と答える人が多くなっている。それらはもちろん正しく否定するものではないのだが、手段としての英語がより重宝されているように聞こえ、文学を専門とする英語教師には少々残念に聞こえる。

英語で書かれた文学作品は、実は英語学習の宝庫である。本書はアメリカ文学を素材として、英語を多角的な視点から学ぶことに主眼を置いたものである。テキストは19世紀から20世紀初頭のアメリカを代表する作家の作品を選び、「学習者にはほんものの文学作品を読ませて、なまの英語に触れさせること」と「学習者の気づく・感じる力を引き出し、より実践的な英語学習につなげること」を目的としている。「英語の小説なんて読めるはずがない」「難しそうだ」と言わず、まずとにかく読むことにトライしてほしい。そうしてネイティブスピーカーによる物語の朗読を聞いてほしい。作品の英語には一切手を加えていないため、最初は少々難しく感じるであろう。しかしながら、何度か読むうちにそして聞くうちに、必ずや物語の世界が頭の中に思い描かれるはずである。そうなれば、しめたものである。あなたの「英語のちから」は必ず上がる。

本書は、優れた文学作品を題材として、真の英語力を養うために編集されたものである。本書を通じて、英語力の養成と同時に、文学作品の読み方・楽しさを知ってもらえるものと確信している。本書をきっかけに、アメリカ文学、イギリス文学への興味に繋がることを期待している。

近年の大学英語テキスト新刊で、文学作品を題材としたものは、皆無に等しい。これは、文学が「世の中の役に立たないもの」の代表のようにみられる世界的な衰退と、「使える英語」を目標とし、英語コミュニケーションを謳った外部試験がその尺度として重要視されるという傾向の影響である。そのような風潮の中、文学作品を、しかも原文のまま題材としてテキストを編集しようというのは、時代に逆行する無謀ともいえる行為であるかも知れない。しかしそれが無謀であるかどうかは、本書を使用した皆様に判断してもらいたい。

このような「時代錯誤」の企画を何とか形に出来たのは、英宝社の宇治正夫編集長のバックアップのお蔭である。企画の段階から賛同をいただき、問題作りについて、多くの貴重なアドバイスを根気強く送っていただいた。心より敬意を表したい。

2008年 盛夏

編者

本書の使い方

各章で用いられた題材が文学作品というだけで、英語力を強化するという目的は、他の英語の教科書の変わりはない。むしろ、優れた文学作品の持つ、ストーリー性の高さ、内容の面白さ、巧みな語彙表現といった学習教材としてのメリットを生かしたテキストを目指している。本書の内容は、題材のすばらしさを学習教材として最大限に引き出すものになっている。また同時に、作品の理解を深めるための設問も準備している。基本的な本書の使用法は以下の通りである。

「作家を知ろう」

本書に取り上げた作家は、19世紀後半と20世紀初頭を代表するアメリカ作家である。作品の理解には、作家について知ることは不可欠である。作家の経歴、文学史上の重要性、作品の生まれた歴史的背景を知ろう。興味をもったら、英宝社出版『21世紀から見るアメリカ文学史』やウェブで更に詳しく学ぼう。

「作品紹介」

本書に取り上げた作品は、アメリカ文学の中でも主要な作品である。作品の全体的なストーリーと、本文に抜粋された場面について、理解をしておこう。作品自体に興味をもった人は、翻訳でもいいので、是非作品全体を読むことを勧める。

Check the Vocabulary

Readingに入る前に、本文を読むために必ず知っておかなければならない重要語句を10個選んでいる。右に準備された(a)から(j)の中から、その意味に当たるものを選び、線で結びなさい。英語の単語を、別の英語表現で理解することで更なる語威力増強を目指している。ここに上げられた単語は、他の文章でも繰り返し出てくる頻出語である。しっかりと身に付けて欲しい。

Reading

作品全体を取り上げるのは物理的に無理なので、その作品のエッセンスといえる部分を抜粋している。しかもレベル的には、大学初年で十分読めるものになっている。難解な箇所や語

句には、欄外に注を付しているのです、おそらく辞書なしで読めるものと思われる。注にないものは、基本語彙として判断している。もし注にないのに意味が分からない単語があったとしたら、学習者のレベルに応じて、辞書で確認し、身に着けるようにしたい。

読解はどこまで読みこむか、その深さが重要になるが、基本的には次に準備されている **True or False** と **Questions & Answers** の 10 問の解答が出来る程度で十分である。従って、本文の完全な日本語訳は基本的には求めていない。もちろん、解答や細かく理解をする上で、部分的に日本語訳が役立つ場合もあると思われるので、そのあたりは、指導者の判断、学習者のレベル、授業のスタイルに任せることにしたい。

授業の進め方としては、学習者のレベルによるが、すぐに本文を読むのではなくて、付属の CD で、まず大まか内容を聞き取りをおこなわせるとよい。リスニングをさせる場合には、その後に準備されている **True or False** と **Questions & Answers** の質問の部分をあらかじめ確認し、それを聴き取りのポイントとして、その答えを引き出すような「アクティブ・リスニング」を行ってほしい。目的のない聴き取りは、ほとんど効果がないし、ただ音が流れる時間になってしまう。

CD によるリスニングが終わったら、今度は目を使ってリスニングで聞き取れなかった部分を確認したい。CD は、標準的なアメリカ英語で録音されているので、本文の内容が理解できた時点で、シャドーイングなどの方法を使って、音読の練習につなぐことを忘れないで欲しい、文学作品ほど、音読にて適した教材はない。是非、内容を理解して感情をこめた読み方「インタプリテーション・リーディング」を練習して欲しい。

True or False と Questions & Answers

ここに準備されている合計で 10 問の設問に答えられれば、本文が十分理解できたといえる問題に厳選している。全体として、大まかな内容が理解できるような読み方が出来る力を身につけて欲しい。そのための「スキミング」や「ブラウジング」といった読み方を習得すべきである。特に本文の全訳などは必要でない。**True or False** では、本文の内容に合致していれば T、合致していなければ F の解答となる。解答だけでなく、本文のどこにその理由があるかも確認して欲しい。

Questions & Answers は、トイック形式で 4 つの選択肢から、正解一つを選ぶ形式と、本文からその解答を抜き出す形式の 2 種類がある。

Grammar

題材が文学作品だからといって、全体の内容が理解できれば終わりではない。重要な文法事項や語彙、熟語は、性格に理解して、身に着けておく必要がある。本文を使った問題となっている。ここでも、形式だけでなく、内容やレベルもトイック対応となっている。こ

ここでは、文学作品からの問題となっているので、ストーリーのどんな場所で、どんな風に使われていたかと関連させることによって、より高い定着度が期待できることを期待している。

Agree or Disagree?

題材をもう少し深く理解するための設問で、作品の根幹にかかわるように工夫された内容としている。与えられた意見に対して、賛成なのか、反対なのか、必ず理由や根拠をつけて自分の意見を述べて欲しい。設問とその解答を考えることで、より作品の理解が深くなるはずである。設問は日本語で出されているので、解答も日本でよいが、学習者のレベルに応じて、英語でディスカッションやディベートをしてもらっても良い。授業での意見交換が無理であれば、レポートの課題として使ってもらっても良い。

文学作品の解答は、実際には、明確に Yes とか No とか言い切れないことが多い。その際大事になるのは、その理由付けである。むしろ、解答そのものより、理由付けこそが、作品解釈に繋がるのである。

題材が文学作品だからといって、英語力を育成するための指導法や訓練法が変わるわけではない。文学作品がコミュニケーション力の育成に繋がらないはずはない。むしろ、生きた言葉の結晶としての文学作品の魅力が活かされ、それを土台として、しっかりした英語力を身につけてもらいたい。授業担当者、学習者によって、更なる工夫を試みて、授業を活性化して欲しい。

CONTENTS

CHAPTER 1.	O'Henry, "After Twenty Years" (I)	3
CHAPTER 2.	O'Henry, "After Twenty Years" (II)	8
CHAPTER 3.	Ralph Waldo Emerson, <i>Nature</i>	13
CHAPTER 4.	Mark Twain, <i>Adventures of Huckleberry Finn</i> (I)	18
CHAPTER 5.	Mark Twain, <i>Adventures of Huckleberry Finn</i> (II) ...	23
CHAPTER 6.	Edgar Allan Poe, "The Black Cat"	28
CHAPTER 7.	Louisa May Alcott, <i>Little Women</i>	33
CHAPTER 8.	Henry James, <i>The Daisy Miller</i>	38
CHAPTER 9.	Charlotte Gilman, "The Yellow Wallpaper"	44
CHAPTER 10.	Kate Chopin, <i>The Awakening</i>	50
CHAPTER 11.	Sherwood Anderson, "Paper Pills"	55
CHAPTER 12.	F. Scot Fitzgerald, <i>The Great Gatsby</i> (I)	60
CHAPTER 13.	F. Scot Fitzgerald, <i>The Great Gatsby</i> (II)	65
CHAPTER 14.	Nathaniel Hawthorne, <i>The Scarlet Letter</i>	70

**Let's Learn English
from
American Literature**

[アメリカ文学から英語を学ぼう]

O'Henry, "After Twenty Years" (I)

作家を知ろう！ O'Henry (1862–1910)

本名を William Sydney Porter. アメリカを代表する短編作家。ノースカロライナ州に医師の子として生まれる。様々な職業につき 1896 年には公金横領罪で告発され、5 年間服役した。獄中で文筆活動を始めた。彼の作品はユーモアとペーソスにあふれた語り口が特徴で広く読みつかれてきた。下記に述べた 2 つの作品は日本でもよく知られたところである。しかしながら教訓めいた部分が多く、批評については意見の分かれるところでもある。他の代表的な短編は "The Last Leaf" 「最後の葉」、"The Gift of Magi" 「賢者の贈り物」など。

作品紹介 "After Twenty Years"

ニューヨークで育った 2 人の男が別れに際して 20 年後に再会することを誓った。さて 20 年後の今日、彼らは出会えるのであろうか。上に述べた 2 つの作品がかなり教訓的であるのに較べると、自然に読みやすいプロットとなっている。ここでは全文を掲載している。この物語から読み取れるテーマについて、あとで考えてみよう。

CHECK THE VOCABULARY

- | | | |
|----------------|---|---|
| 1) habitual | • | • (a) to make something turn around quickly |
| 2) twirl | • | • (b) in the area near a place |
| 3) stalwart | • | • (c) tools and strong equipment, such as those used in the home |
| 4) vicinity | • | • (d) to pull something or someone along the ground somewhere |
| 5) hardware | • | • (e) permanent mark left on the body from a cut, or other injury |
| 6) appointment | • | • (f) to communicate with someone by writing letters |

- | | | |
|---------------|---|--|
| 7) scar | • | • (g) try one's best |
| 8) drag | • | • (h) strong |
| 9) correspond | • | • (i) a time you have arranged to meet someone or go somewhere |
| 10) hustle | • | • (j) doing something often |

READING

- 1 **on the beat** 「巡回中の」
- 5 **nigh**: nearly
depeopled: deprive of people
- 8 **adown**: down
thoroughfare 「道路の意味」
- 11 **kept early hours** 「早く閉まる」
- 22 **Sounds**: It sound
- The policeman on the beat moved up the avenue impressively. The impressiveness was habitual and not for show, for spectators were few. The time was barely 10'oclock at night , but chilly gusts of wind with a taste of rain in them had well nigh depeopled the streets.
- Trying doors as he went, twirling his club with many intricate and artful movements, turning now and then to cast his watchful eye adown the pacific thoroughfare, the officer, with his stalwart form and slight swagger, made a fine picture of a guardian of the peace. The vicinity was one that kept early hours. Now and then you might see the lights of a cigar store or of an all-night lunch counter; but the majority of the doors belonged to business places that had long since been closed.
- When about midway of a certain block the policeman suddenly slowed his walk. In the doorway of a darkened hardware store a man leaned, with an unlighted cigar in his mouth. As the policeman walked up to him the man spoke up quickly.
- “It’s all right, officer,” he said, reassuringly. “I’m just waiting for a friend. It’s an appointment made twenty years ago. Sounds a little funny to you, doesn’t it? Well, I’ll explain if you’d like to make certain it’s all straight. About that long ago there used to be a restaurant where this store stands—‘Big Joe’ Brady’s restaurant.”
- “Until five years ago,” said the policeman. “It was torn

down then."

The man in the doorway struck a match and lit his cigar. The light showed a pale, square-jawed face with keen eyes, and a little white scar near his right eyebrow. His scarfpin
5 was a large diamond, oddly set.

"Twenty years ago to-night," said the man, "I dined here at 'Big Joe' Brady's with Jimmy Wells, my best chum, and the finest chap in the world. He and I were raised here in New York, just like two brothers, together. I was eighteen
10 and Jimmy was twenty. The next morning I was eighteen and Jimmy was twenty. The next morning I was to start for the West to make my fortune. You couldn't have dragged Jimmy out of New York; he thought it was the only place on earth. Well, we agreed that night that we would meet
15 here again exactly twenty years from that date and time, no matter what our conditions might be or from what distance we might have to come. We figured that in twenty years each of us ought to have our destiny worked out and our fortunes made, whatever they were going to be."

20 "It sound pretty interesting," said the policeman. "Rather a long time between meets, though it seems to me. Haven't you heard from your friend since you left?"

"Well, yes, for a time we corresponded," said the other. "But after a year or two we lost track of each other. You
25 wee, the West is a pretty big proposition, and I kept hustling around over it pretty lively. But I know Jimmy will meet me here if he's alive, for he always was the truest, staunchest old chap in the world. He'll never forget. I came a thousand d miles to stand in this door tonight and it's
30 worth it if my old partner runs up."

7 **chum**: close friend

25 **the West** 「西部の意味」

28 **stanchest**: stanch = staunch 信頼に足る.

EXERCISES

TRUE OR FALSE

1. The policeman's attitude on beat was not habitual and for showing off. (T or F)
2. In a doorway of a darkened hardware store a man leaned with a lighted cigar in the mouth. (T or F)
3. Twenty years ago they dined at 'Big Joe' Brady's restaurant and they left for the West together. (T or F)
4. After a year or two they lost track of each other. (T or F)
5. He does not believe Jimmy will meet him here if Jimmy is alive. (T or F)

QUESTIONS & ANSWERS

本文から答えを抜き出して答えよう。

1. How was the weather around the region he patrolled then?
2. What kind of area was he walking?
3. What did the man in the darkened hardware store intend to do here?
4. How did the man describe the West?
5. What kind of person was Jimmy for the man?

GRAMMER

1. () doors as he went, twirling his club with many intricate and artful movements, he made a fine picture of a guardian of the piece.
a) Tried b) Trying c) Try d) Have tried
2. I'm just waiting for a friend. It's an appointment () twenty years ago.
a) made b) making c) have made d) make
3. The man's scarfpin was a large diamond, () set.
a) strangely b) oddly c) beautifully d) badly
4. The next morning after dining with Jimmy, the man started () the West to make his fortune
a) in b) to c) on d) for
5. We figured that in twenty years each of us ought to have our destiny () out.
a) work b) worked c) working d) being worked
6. We agreed that night that we () meet here again exactly twenty years from that date and time.
a) would b) will c) could d) had

AGREE OR DISAGREE?

1. 通りの暗がりです待っていた男はとてもあやしいやつに見える。
2. ジミーが20年前の約束を覚えているとは思えない。